

2022年6月7日掲載 カーゴニュース

第一貨物／トナミ運輸

静岡で協業開始、拠点共有と共同配送

将来は幹線輸送の相互補完も視野に

DTホールディングス（本社・山形県山形市、武藤幸規社長）とトナミホールディングス（本社・富山県高岡市、綿貫勝介社長）は1日、2021年2月に締結した資本業務提携の環境として、双方の中核会社であると第一貨物（本社・山形県山形市、米田総一郎社長）とトナミ運輸（本社・富山県高岡市、綿貫勝介社長）が13日から初の

協業を開始すると発表した。具体的には第一貨物静岡支店の特積み施設にトナミ運輸が入居し、ホームスペースの有効活用を行うとともに付帯施設を共用する。併せて地域での共同配送を実施することで両社の輸送効率の向上を図る。また、今後は幹線輸送についても相互補完を視野に入れている。

トナミ運輸の現・静岡支店は老朽化し、手狭にもなっていることから、同社と第一貨物の施設賃貸借契約の締結と事業計画変更認可の取得により第一貨物静岡支店内に移転する。これによりホームが現在の1・5倍の増床となり、作業性の向上が期待できる。一方、第一貨物にとっては、トナミ運輸がホームの3分の1に相当するスペースに入居することで施設の稼働率が向上するメリットがある。施設の共同利用では、双方の本業スペースを区分けし、営業業務情報に関しては厳格な情報隔離措置を実施。コンプライアンス遵

守を徹底する。

今後、両社は持続可能な物流ネットワークの構築をめざし、独自性を維持することを基本に、拠点の相互活用や輸送業務の効率化によるシナジー効果創出に向けて協業内容を検討していく。輸送の効率化では集荷・配送業務に関するITシステムの共有化や、運用業務の最適化による協業効果が期待できる。

両社は協業を通じ、物流サービスを安定的に提供しながら成長を続けることで企業価値向上を実現する。加えて、CO₂排出量削減や働き方改革に取り組みことでSDGs（持続可能な開発目標）の実現に向けて注力していく。

協業による効率化を推進

